

第2回福知山市ベビーファースト宣言起草委員会議 概要報告

【日時】令和6年12月26日(木)午後1時30分～午後3時20分

【場所】機能訓練室(ハピネスふくちやま2階)

【出席】委員 9人、事務局 4人、傍聴 1人

1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 前回のふりかえり

(2) 子育てにやさしいまちづくりに向けて事業者、地域、団体が取り組むこと

【意見交換内容】

① 施設(店舗)の充実

- ・ お店同士がつながって、一つの目標に取り組むことで市域がよくなるという。
- ・ 取り組んでいる施設の場所などが分かるという。
- ・ 取り組んでいることが見ただけで分かりやすいことが求められる。
- ・ キッズフレンドリー施設について知られていない。広がっていくという。

② 安心の職場環境

意識

- ・ あくまで子育ての関係では、母親が休むという認識が未だに強い。いざというときの女性の負担が大きい。
- ・ 病児保育の制度があるから、子どもが病気の時には預ければいい、という考え方に親としてはなりにくい。
- ・ 子育てに手厚い事業者もあり、子どものために休みをとることが当たり前という考え方も徐々に広がり始めている。
- ・ 子育てのために休むことについては理解が広がっている一方、介護でのお休み

については理解が低い。どちらも理解されるべき理由。それぞれの立場を理解しようとすることが大切。

- ・ 若い世代には「男性の主体的な育児」の意識が広がっているが、管理職の方などにまで浸透したとは言えない印象。
- ・ 管理職などは男性が多く、まだまだ浸透するのに時間がかかるのかもしれない。
- ・ 意識を変えるための研修、セミナーなどが大切。

制度、環境

- ・ 育児休暇の制度についてはまだまだ整備されていない。
- ・ 人手不足は、どの事業者でも顕著な問題。大事な戦力を出産で失いたくない状況にあり、産後の復帰も進んでいる。
- ・ 突発的な休みに対応できる職場環境であることを PRしないと人手を確保できないような状況になっていることを事業者も感じている。
- ・ 少しずつ育児休暇も増えてきたが、男性の育児休暇はそこまで広がっていない。
- ・ 休みを取った際には、①他の職員にお願いする、②他の日程に変更するなどして対応をしている。
- ・ 仕事をフォローできる体制づくりは大手など人手がある事業者だからできる印象がある。
- ・ 専門制が高い仕事、資格職などは急に休みをとるということは難しいと思う。
- ・ 就職活動をするうえでは、女性の育児休暇取得率 100%と多くの企業で書かれているが、実際にはいろいろな条件や、復帰後などいろいろな課題がありそう。
- ・ それぞれの職場環境が分かる、指標となるものがあるとよい。
- ・ 職場環境がよい事業者は減税されるような特典があると改善に向かうかもしれない。

③ 地域における相談、交流の場

- ・ 乳幼児の子育て家庭の交流の場は、すくすくひろばなどであるが、もう少し上の子どもがつながる場があってもいい。
- ・ 子ども(小学生)は、児童館や、学校の運動場などに集まったりしている。
- ・ 学校の運動場も「関係者以外立ち入り禁止」となっていて自由に利用できない。

- ・ 地域に開放されているお寺がある。
- ・ 公民館でもこども向けの活動を実施しているが、あまり知られていないのでは。
- ・ 学生が子ども向けに活動をしているが知られていない。
- ・ 子どものころは、映画をみんなでみるようなイベントが地域でされたりした。
- ・ 事業者さんが、そういったイベントのようなものを中心になって実施できないだろうか。
- ・ 市民講座みたいなかたちで、誰かが子どもたちに自然での遊び方を教えてくれるようなことができないだろうか。
- ・ イベントが必ずしも必要なわけではなく、自由に遊べる、集える空間があるといい。

④ 情報発信

- ・ いろいろな活動をそれぞれが実施しているが、一つの情報になっていない。
- ・ 福知山の子ども向け、子育て関係の情報がまとまったサイトがあるといい。
- ・ 広報誌などは、イベント情報って欄が小さくて情報取得の手段になりにくい。
- ・ いろいろな子育て関係団体に情報がおりてくるが、もっと子育ての当事者に参加してもらえるようにすることが大切。

4 その他

第3回開催日： 令和7年1月30日(木) 13:30～ @機能訓練室

5 閉会